

# 全国学力・学習状況調査のCBT化に向けた取組状況

## 背景

- GIGAスクール構想の推進やPISA等の国際学力調査のCBT※による実施の流れなどを踏まえ、全国学力・学習状況調査のCBT化について、「全国的な学力調査のCBT化検討WG」において、専門的・技術的観点から検討を行い、令和3年7月に「最終まとめ」。
- 1人1台端末を活用したCBT化により、現在の紙形式による実施では困難な、自治体・学校現場等への迅速なフィードバック、より精緻で多様なデータの収集、調査実施における改善・効率化が可能となる。 ※ CBT（Computer Based Testing）：コンピュータ使用型調査



【令和3年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査における端末を活用したオンラインによる実施の様子 代表撮影】

## 方向性と工程（CBT化検討WG「最終まとめ」より）

- ①令和3年度以降、試行・検証により課題の抽出とその解決を繰り返し、段階的に内容等を拡充させながらCBT化の実現に着実につなげる。
- ②国が実施すべき主要な調査の「2本柱」である悉皆調査と経年調査※1を、各調査の目的に即して、最適な方法を設計し、それぞれCBT化。

### <工程に関する考え方>

- ③令和6年度から順次CBTを導入

- ・経年調査は、次回予定の令和6年度から導入。 ※2
- ・児童生徒質問紙調査は、令和6年度を目途にオンラインによる回答方式を全面導入。
- ・悉皆調査の教科調査は、令和7年度以降できるだけ速やかに中学校から先行導入し、それ以降、できるだけ速やかに小学校に導入。 ※2

※1 経年変化分析調査及び保護者に対する調査 ※2 紙形式を経過的に併用



## ① CBT試行・検証事業の実施

実施方法やネットワーク環境、システム機能、学校支援方策、児童生徒の端末操作等について、MEXCBTを活用し、段階的な試行・検証を実施。

### <令和3年度>

小中学校100校程度（約1万人の児童生徒）を対象に学校単位で実施。

### <令和4年度>

令和3年度の試行・検証の結果を踏まえつつ、同規模（約1万人の児童生徒）を対象に、令和5年度本体調査でCBT化する中学校英語「話すこと」調査も含め、自治体単位で実施予定。

## ② 詳細な調査設計等の検討

それぞれの調査の目的に即して、専門的・技術的観点から詳細な調査設計を検討（令和3年7月設置）。

### ○ 悉皆調査プロジェクトチーム

- ・問題設計及び結果分析等の在り方
- ・試行検証の評価及び課題の改善に向けた検討
- ・合理的配慮の在り方 等

### ○ 経年調査プロジェクトチーム

- ・次回調査の実施に向けた課題の整理
- ・保護者調査のオンライン化に関する検討
- ・国際学力調査の動向を踏まえた更に効率的な測定手法の検討 等



## ③ 質問紙調査のオンライン化

悉皆調査の児童生徒質問紙調査について、一部の学校で、端末を活用したオンラインによる回答方式で実施。オンライン実施と紙実施の違いなどについて把握・検証しつつ、段階的に規模を拡充。

### <令和4年度>

20万人程度の児童生徒を対象に、一定期間内で分散して実施。

### <令和5年度>

最大100万人程度の児童生徒を対象に、一定期間内で分散して、一部MEXCBTも活用し実施予定。

※学校質問紙調査は平成28年度よりオンラインによる回答方式を導入済み

## 問題開発等

国立教育政策研究所において、CBTの導入に向けた問題開発等を実施するとともに、CBTの特性を活かした測定の在り方や先進的技術の活用に係るフイージビリティ等について研究開発を実施。

令和5年度  
中学校英語「話すこと」調査及び児童生徒質問紙調査のオンラインによる実施方式等について（案）

		実施日程	実施規模	実施方式	備考
中学校	英語「話すこと」調査 【当日実施校】	4月18日（火）	250～500校程度 （当日実施校は全国値が算出できるように文科省が抽出）	MEXCBT（※1）を活用し オンライン方式で実施	結果は全国値として公表。
中学校	英語「話すこと」調査 【期間内実施校】	4月19日（水） ～5月第4週頃 ※各学校の希望を踏まえて調整し、日にちを分散して実施	約9,000校 （当日実施校以外の全学校）		「参考値」として各教育委員会、学校及び児童生徒へ結果を返却。
児童生徒質問紙調査	小学校	4月第2週頃 ～5月第2週頃 ※各学校の希望を踏まえて調整し、日にちを分散して実施	最大80万人 （各学校の希望を踏まえて対象校を決定）	調査受託事業者の用意するシステムによりオンライン方式で実施 （MEXCBT（※1）は使用しない）	・オンライン方式での実施を希望しない学校については紙で実施。 ・R4調査では、小中それぞれ約10万人規模で実施。
	中学校		最大20万人 （各学校の希望を踏まえて対象校を決定）	MEXCBT（※1）を活用しオンライン方式で実施	

（※1）「MEXCBT」：文部科学省CBTシステム。

## 令和5年度全国学力・学習状況調査（中学校）の オンライン実施に向けたMEXCBTの活用準備について

- 令和5年度全国学力・学習状況調査の中学校英語「話すこと」調査（全ての中学校）及び生徒質問紙調査（一部の中学校）について、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）を活用し、オンライン方式で実施することとしています。
- MEXCBTに接続するには、**MEXCBTの利用申込に加えて、学習eポータル標準準拠ソフトウェア（学習eポータル）のアカウントが必要**になります。
- MEXCBTを既に導入されている学校に関しては、令和5年度全国学力・学習状況調査にご参加いただく際にも、そのまま使用できます。
- **MEXCBTの利用申込をしていない設置管理者（市町村教育委員会等）**については、全国学力・学習状況調査に参加するに当たって、**令和4年11月18日（金）までにMEXCBTの利用申込をする必要**があります。  
期日までに申込みがされない場合、アカウント発行が間に合わず、英語「話すこと」調査等の実施ができない恐れがあるため、必ず期日までに申込みを行ってください。その際、アカウント数は4月当初までに転入する生徒数を見込んで十分な数をお申し込みください。
- また、**学習eポータルを導入していない設置管理者（市町村教育委員会等）**におかれては、全国学力・学習状況調査に参加するに当たって、**MEXCBTの利用申請の際に、導入する学習eポータルを選択し、お申込みいただけます。**

<令和5年度全国学力・学習状況調査で利用可能な学習e-ポータル>

- L-Gate（株式会社内田洋行）〔申込受付中、現在利用可能〕
- Open Platform for Education (OPE)（日本電気株式会社）〔申込受付中、現在利用可能〕
- まなびポケット（エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社）〔申込受付中、現在利用可能〕
- Studyplus for School（スタディプラス株式会社）〔申込受付中、現在利用可能〕
- Qubena（株式会社COMPASS）〔申込受付中、令和4年9月から利用開始〕
- みらeポータル（株式会社ネットラーニング）〔令和4年10月頃から申込開始予定・同年12月頃から利用開始予定〕
- R-Station（株式会社両備システムズ）〔令和4年11月頃から申込開始予定・令和5年2月頃から利用開始予定〕

※以下の学習e-ポータルについても運用に向けて検討中。

- tomoLinks（コニカミノルタ株式会社）（令和4年11月から申込開始・令和5年2月から利用開始予定）

- 実証用学習e-ポータル（オンライン学習システム推進コンソーシアム）（現在利用可能、申込受付中）

